

# クロアチア政治・経済の概況



Dubrovnik\_foto\_Romeo\_Ibrišević /Ministarstvo turizma i sporta/  
【ドブロブニク旧市街】

2024年1月  
在クロアチア日本国大使館

# 目次

1	基本情報	P 2
2	政治体制・内政	P 3
3	外交・国防	P 6
4	経済概況	P 7
5	日・クロアチア経済関係の概況	P 18
6	クロアチアの投資環境	P 21

# 1 基本情報



## 【基本情報】

人口：387.1万人（2021年国勢調査）

名目GDP：572億ユーロ（2021年）

面積：56,594km<sup>2</sup>（日本の面積の約15%、九州の約1.5倍）

首都：ザグレブ（人口76.7万人）（2021年）

（参考）スプリット16.1万人、リエカ10.8万人、オシエク9.6万人、ザダル7.1万人

民族：クロアチア人(91.6%)、セルビア人(3.2%)等（2021年国勢調査）

宗教：カトリック、セルビア正教等

通貨：ユーロ（2023年1月より導入）

公用語：クロアチア語（都市部では英語も通じる）

在クロアチア邦人数：約170人

姉妹都市：川崎市とリエカ市(1977年～)、京都市とザグレブ市(1981年～)、  
碧南市とプーラ市(2007年～)

## 【国の特徴】

### ①旧ユーゴスラビア紛争からの復興

- ・1991年に旧ユーゴスラビアから独立。独立を巡り、1991年から1995年、武力紛争が生じた。
- ・その後、戦後復興と民族和解を推進。2020年7月に発足した第2次プレンコビッチ政権は、セルビア系少数民族出身の副首相を入閣させている。

### ②観光大国

- ・アドリア海に面する風光明媚な海岸線と、大小1,185の島々を抱える欧州有数の観光大国。

### ③EU加盟国

- ・2013年7月にEU加盟。現在は西バルカン諸国のEU加盟を後押し。
- ・2020年前半にEU議長国（半年間の任期）を務めた。
- ・2023年1月に通貨ユーロを導入、シェンゲン協定に加盟。

# 2 政治体制・内政－(1) 政治体制

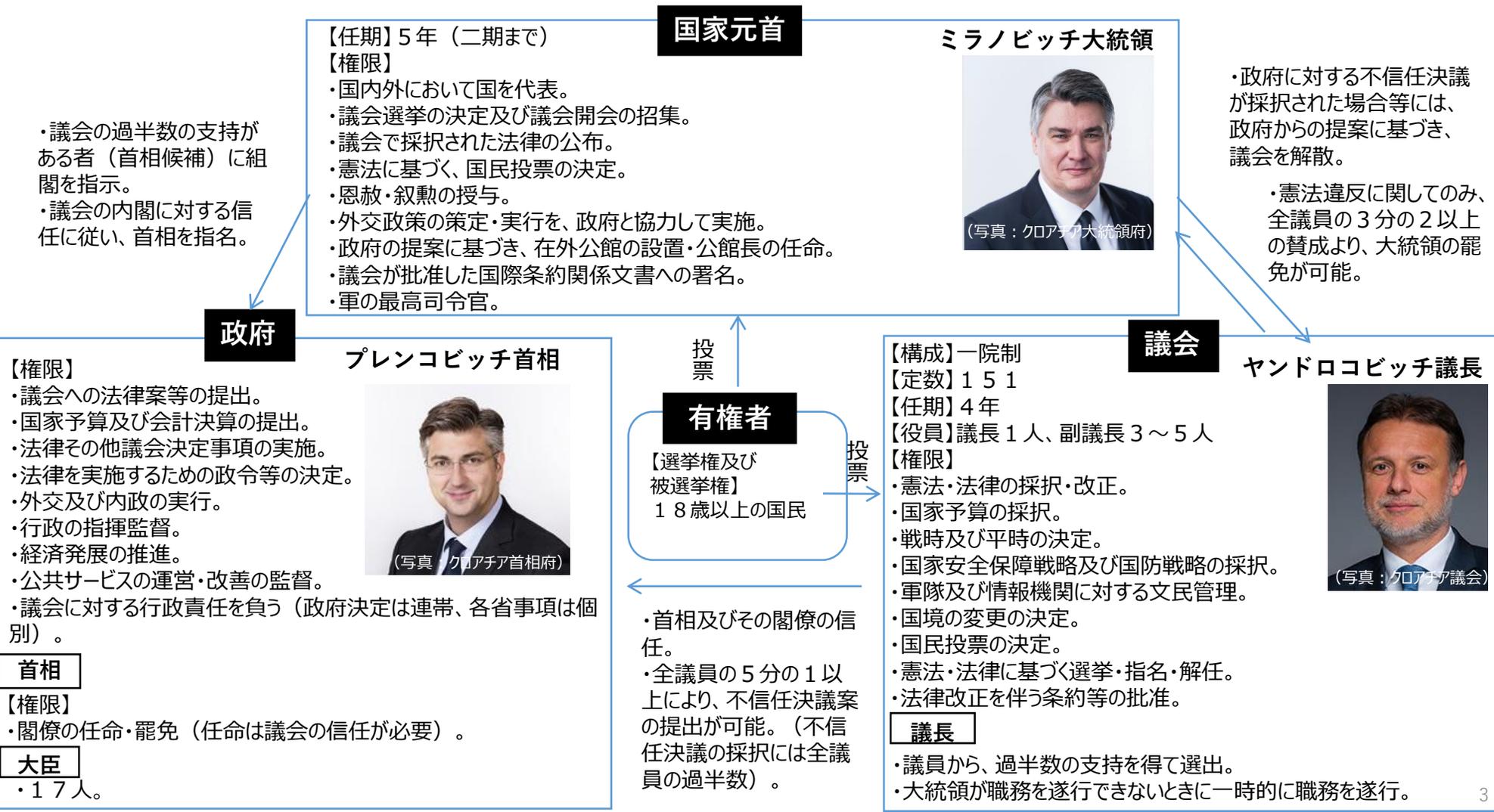
【政体】 大統領を国家元首とする共和制。

【元首】 ゴラン・ミラノビッチ氏（2020年2月就任。任期5年）。

【議会】 1院制（任期4年。定員151）

【政府】 クロアチア民主同盟（HDZ）を主軸とする連立政権。

首相はアンドレイ・プレンコビッチ氏（2016年10月就任、HDZ）。外相は、ゴルダン・グルリッチ＝ラドマン氏（2019年7月就任、HDZ）



## 2 政治体制・内政－（2）内政の動き

### 独立～2015年頃

(1) 1991年から95年にかけて、旧ユーゴスラビアからの独立を巡り武力紛争が展開された。一部旧紛争地域では、紛争時に埋設された地雷が残るものの、現在の治安は概ね安定している。紛争後、国内の民族構成が大きく変化した（クロアチア人：78%(1991年)から90%（2001年）、セルビア人：12%（1991年）から4.5%（2001年））。

(2) 1990年代を通じ政権与党であったクロアチア民主同盟（HDZ：中道右派）と旧クロアチア共産主義者同盟の社会民主党（SDP：中道左派）が二大政党とされ、独立以来、4度の政権交代が行われた。

### 現政権：第一党クロアチア民主同盟を中心とした連立与党、大統領は野党出身

(1) 2015年11月に実施された議会選挙を受けて、2016年1月、非党人で経済界出身のオレシュコビッチ氏を首相とする政権が発足したが、政権与党内の混乱により不信任案が可決され、解散総選挙が実施された。2016年9月に行われた議会選挙の結果、HDZとMOSTの間で連立が合意され、10月、プレコビッチHDZ党首を首相とする政権が発足した。

(2) 2017年4月、クロアチア最大の民間企業集団であるアグロコル・グループの経営悪化を巡り連立与党間で対立が生じ、プレコビッチ首相はMOST所属閣僚3名を更迭し、MOSTが連立政権を離脱した。その後、与党HDZは、人民党（HNS）と新たに連立合意を結び、同年6月、内閣改造を実施した。

(3) 2020年1月に決選投票が行われた大統領選挙で、野党SDP候補のミラノビッチ元首相が現職で与党HDZが推すグラバル＝キタロビッチ候補に約10万票の得票差で勝利。

(4) 新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、前倒しで行われた2020年7月の議会選挙で与党HDZが勝利。HDZは、少数民族代表議員や中道政党等の協力を得て、議会過半数を確保し、第2次プレコビッチ内閣を発足。新政権は、省庁再編により省の数を20から16に削減。また、連立しているセルビア系政党から副首相を任命した。

### 2023年の主な出来事

(1) 2023年1月に、クロアチアの長年の戦略目標であったシェンゲン圏加盟と通貨ユーロ導入を果たした。

シェンゲン圏加盟後、国境管理における大きな事件・事故は発生していない。他方で、欧州及び中東情勢の変化を受け、10月にスロベニアはクロアチア国境における一時的規制を導入した。また、不法移民が増加（警察が認知した数は、前年比で約7割増）している。

ユーロ貨導入前から国民の預貯金の多くがユーロ貨であったこと等、経済が高度に「ユーロ化」されていたことから、通貨切替は円滑に進んだ。他方、エネルギー・食糧価格の高騰とも相まって、インフレが加速。GDPの約2割を占める観光業はコロナ禍による停滞から回復、GDPを押し上げたものの（2023年第2四半期の実質経済成長率は2.8%）、国民はなかなか景気回復を実感できずにいる。こうした中、2024年には議会選挙、欧州議会選挙（6月）、大統領選挙（12月）が予定され、特に経済対策に国民の関心が集まっている。

(2) 2020年に2度の大規模地震を経験（3月に首都ザグレブでマグニチュード5.5、12月にシサク・モスラビナ県でマグニチュード6.2）。復興の遅れが指摘され、政府は2023年の優先事項として震災復興に注力。欧州連帯基金（EUSF）総額10億300万ユーロ（ザグレブ地震からの復興に割り当てられていた資金は、当初の申請期限（2022年6月）が1年間延長された）は、6月に全資金の使用を完了した。

(3) 閣僚の交替や国営企業関連の不祥事が相次いだ。年初頭には、建設・都市計画・国家資産相等が交替（震災復興により焦点を当てるための交替）、11月には国防相が交通死亡事故を起こし解任され、12月には経済・持続可能な開発相が同省顧問の不正行為を理由に解任された。また7月には、国営電力会社HEPが、余剰の天然ガスを購入価格よりも安価に転売し多額の損失を出していたことが発覚し、同問題を議論するために憲政史上初めて大統領が招集した臨時会が開催された。

# 2 政治体制・内政－ (3) 議会政党、議席配分

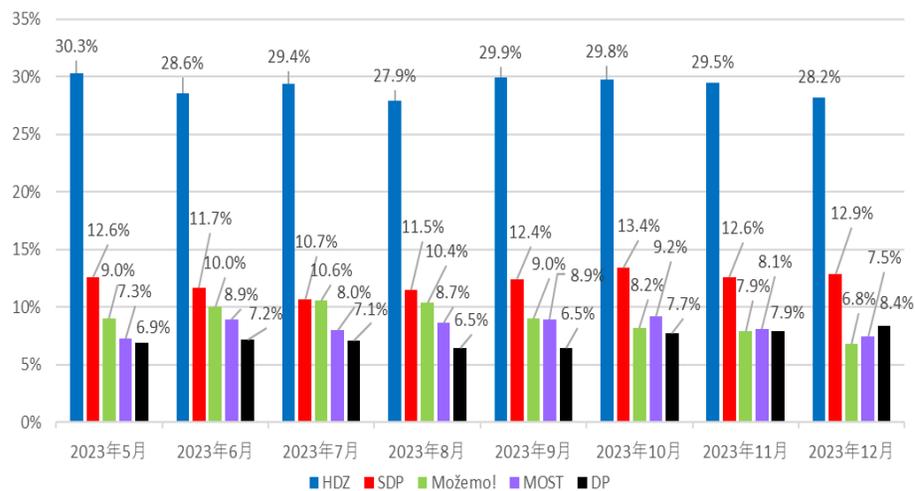
【クロアチア議会における議席配分（計151議席）】（2024年1月時点）

【与党連立・協力議員】（計76議席）	議席
クロアチア民主同盟（HDZ） 1989年結成（トウジマン初代大統領を輩出）2011年選挙で下野した後、2016年1月より政権与党。	62
独立民主セルビア党（SDSS）	3
クロアチア社会自由党（HSLŠ）	2
キリスト教民主党（HDS）	2
人民党（HNS）	1
少数民族枠議員（SDSSを除く）	5
その他無所属議員	1

【野党】（計75議席）	議席
社会民主党（SDP） 1990年結成。旧クロアチア共産主義者同盟。過去2000年と2011年の2回政権与党となった。	14
社会民主主義者党 2021年10月にSDPから離党した議員等により2022年7月に結成。	11
MOST 無所属議員による改革志向の政治グループとして2012年に結成。HDZと連立していたものの、2017年4月に連立解消。	7
ミロスラブ・シュコロ祖国運動（DP） 2020年2月に歌手でもあるシュコロ氏を中心に結成。21年7月にシュコロ氏が党首を辞任、10月にペナバ・ブコバル市長が党首に就任。	5
我々ならできる！（MOZEMO!） 2019年にザグレブ市議会議員を中心に結成。トマシェビッチ・現ザグレブ市長が所属。	4
クロアチア主権主義者	4
農民党（HSS）	3
イストラ民主会議（IDS）	2
フォーカス	2
その他少数政党所属議員	10
無所属	13

最近の政党支持率（上位5政党）

政党支持率（上位5政党）  
Ipsos plus社Crobarometar（毎月25日頃発表）



# 3 外交・国防

## 外交・国防の基本方針

(1) 2009年4月、NATOに加盟。2013年7月にEU加盟。2020年1月から半年間、EU議長国を務めた。2023年1月からユーロ導入及びシェンゲン圏に加盟。また、OECD加盟を目標としており、2022年6月にOECD理事会はクロアチアの加盟に向けたロード・マップを採択した。

(2) 1990年代の紛争にもかかわらず、近隣諸国との関係は概ね良好。V4（ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー）との協力や3海（バルト海、アドリア海、黒海）イニシアティブを通じた取り組みなど、エネルギー安全保障や域内協力等との観点からも中・東欧諸国や地中海諸国との連携を強化。

(3) EU、NATO、国連、中欧・地中海における活動、経済外交や開発協力・人道支援活動の強化、法の支配、人権保護及び持続可能な開発の促進、南東欧地域及び世界の平和・安定への貢献を重視。こうした方針に基づき、コソボ国際安全保障部隊（KFOR）の他、国連やNATOの平和維持ミッションに要員を派遣している。西バルカン諸国へのEU拡大による同地域安定化の促進を強く支持。ボスニア・ヘルツェゴビナ等に多く居住する在外クロアチア人の地位・権利保護も重要課題としている。

(4) 2022年2月ロシアによるウクライナ侵略後、直ちにウクライナの主権と領土的一体性への支持を表明、ロシア非難の関連国連総会決議に賛成、国際刑事裁判所（ICC）付託にも参加。ウクライナに対し、人道支援物資や歩兵用装備品、ヘリコプター等を供与。2万人以上のウクライナ難民を受入。2022年10月には、初のクリミア・プラットフォーム議会サミットをザグレブで開催した。（日本からは細田衆議院議長（当時）がビデオメッセージを送付。）

## 軍事力

(1) 国防予算：11億7000万ユーロ（2024年）

(2) 兵力：陸軍11,100人、海軍1,650人、空軍1,600人、統幕3,000人（志願制）（2022年：ミリタリーバランス）

## 2023年の主な出来事

(1) 7月にウクライナ産穀物流通のための黒海穀物イニシアティブの延長が合意されなかったことを受け、クロアチアの港湾（リエカ港及びブコバル港）を利用したウクライナ産穀物の輸送を発表。1990年代の自らの紛争の経験を活かした地雷除去支援に注力、2023年10月にはザグレブにてクロアチア及びウクライナ政府の共催により「ウクライナにおける人道的地雷除去支援ドナー会合」を開催した（日本からは辻外務副大臣が出席）。

(2) エネルギー安全保障の観点からはLNGターミナル（米国産LNGを主に受け入れている）の能力拡大（29億立方メートルから61億立方メートル）を決定。LNGはスロベニア及びハンガリーに輸出している他、奥、独（バイエルン州）等の中・東欧諸国やボスニア・ヘルツェゴビナ等近隣諸国への将来的な供給構想を発表している。

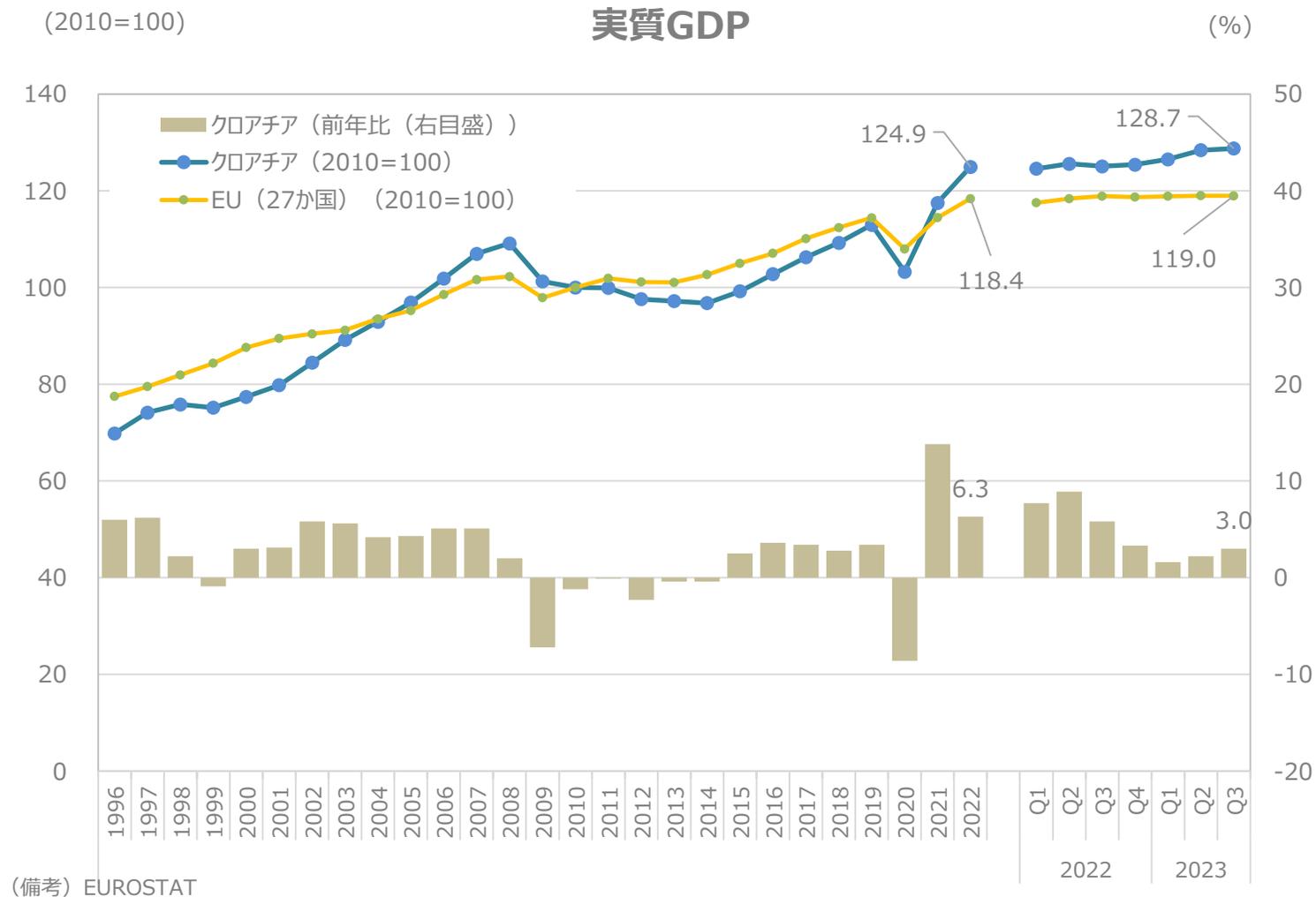
(3) 2023年クロアチアは国際ホロコースト記憶同盟（IHRA）議長国に就任。6月にドブロブニク、11月に首都ザグレブでIHRA本会合を開催。

(4) 10月のハマスによるイスラエルに対するテロ攻撃を受け、同攻撃を強く非難、イスラエルの自衛権を支持している。10月のガザ情勢に関する国連総会決議には、ハマスのテロ攻撃に言及がないとして米国等と同様に反対票を投じたが、12月のガザ地区即時停戦を求める国連総会決議には賛成票を投じた。ガザ地区住民支援のため125万ユーロの人道支援を実施。

(5) 欧州の安全保障情勢の変化を受け軍備強化にも注力。中古の仏ラファール戦闘機の導入（2021年に調達契約済み。2024年に納入予定）、ブラッドレー歩兵戦闘車の導入（2022年に調達契約済み、2023年に一部納入済み、配備は2026年見込み）、短距離防空ミサイルシステムの導入（2022年にMBDA仏社と調達契約済、納入は2024年予定）を進めた他、ブラック・ホーク型ヘリコプターの追加調達（4機保有済み、追加8機購入を計画）や中距離防空ミサイルシステムの調達を計画。

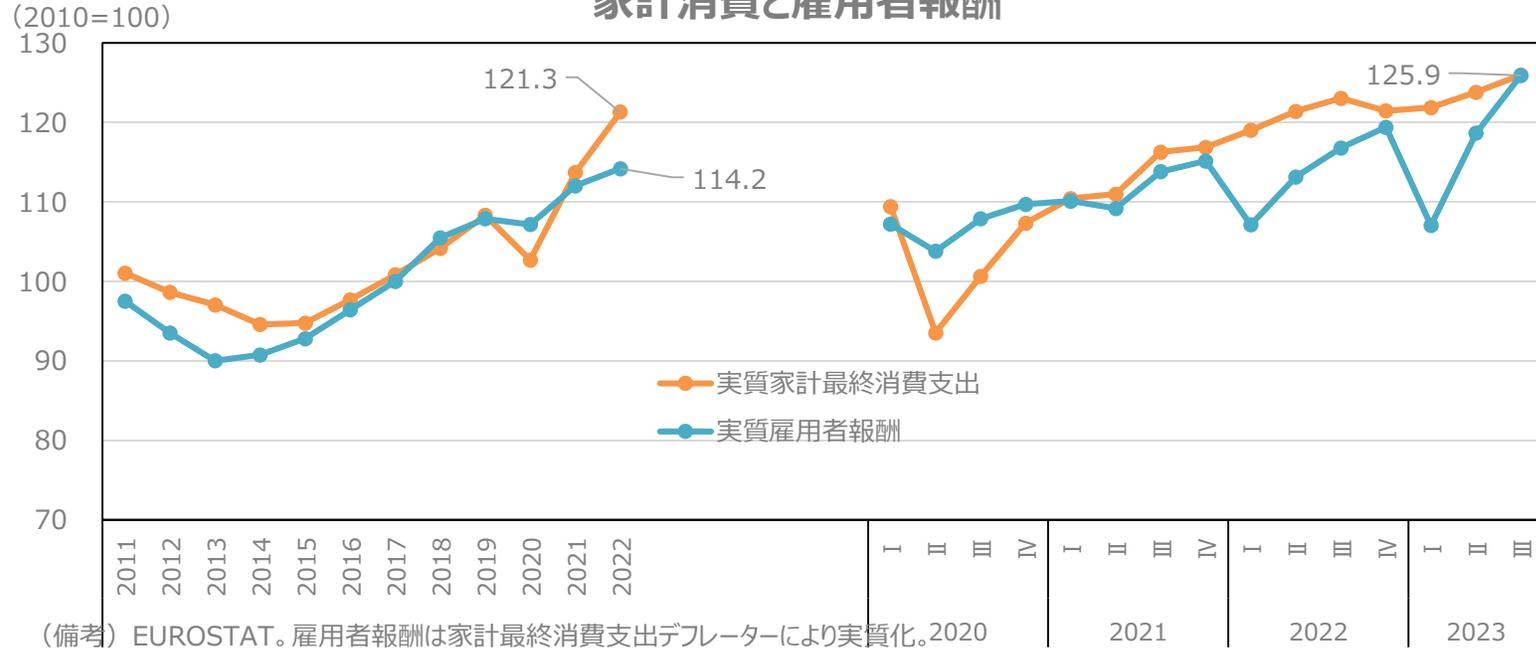
# 3 経済概況 ～ 実質GDP ～

- ・2022年実質GDPは、前年比6.3%増。2年連続で前年を上回る。
- ・欧州委員会の経済見通し（2023年11月）によれば、2024年は前年比2.5%増、2025年は同2.8%増である。

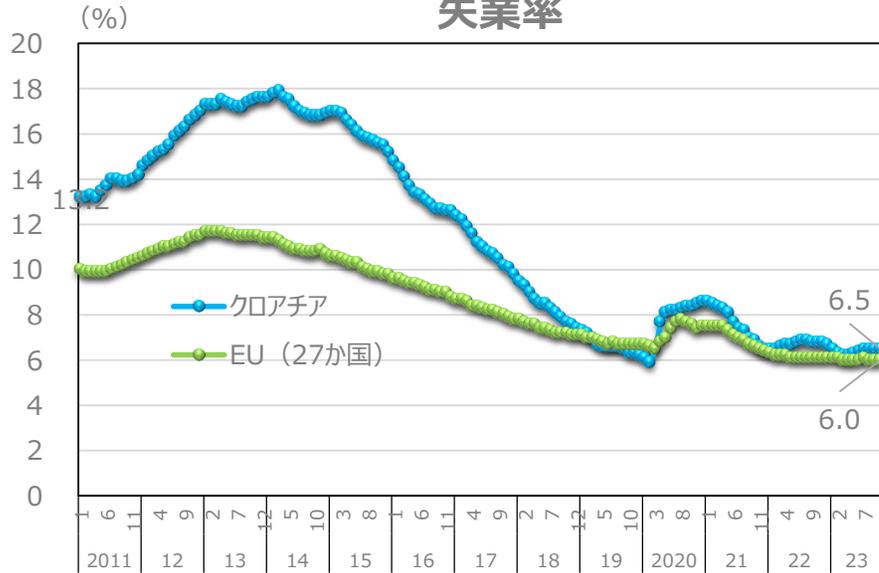


# 3 経済概況 ～ 消費、失業率、消費者物価 ～

## 家計消費と雇用者報酬

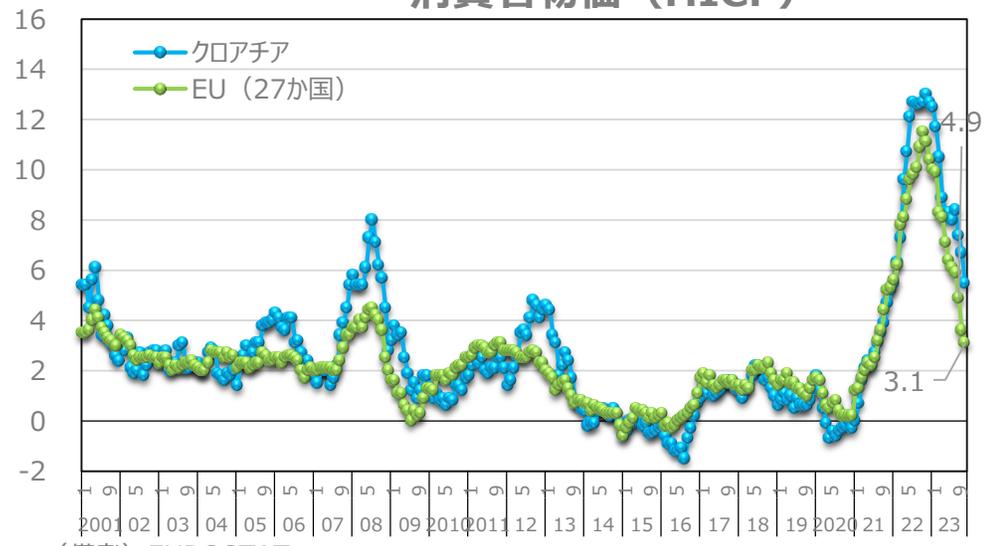


## 失業率



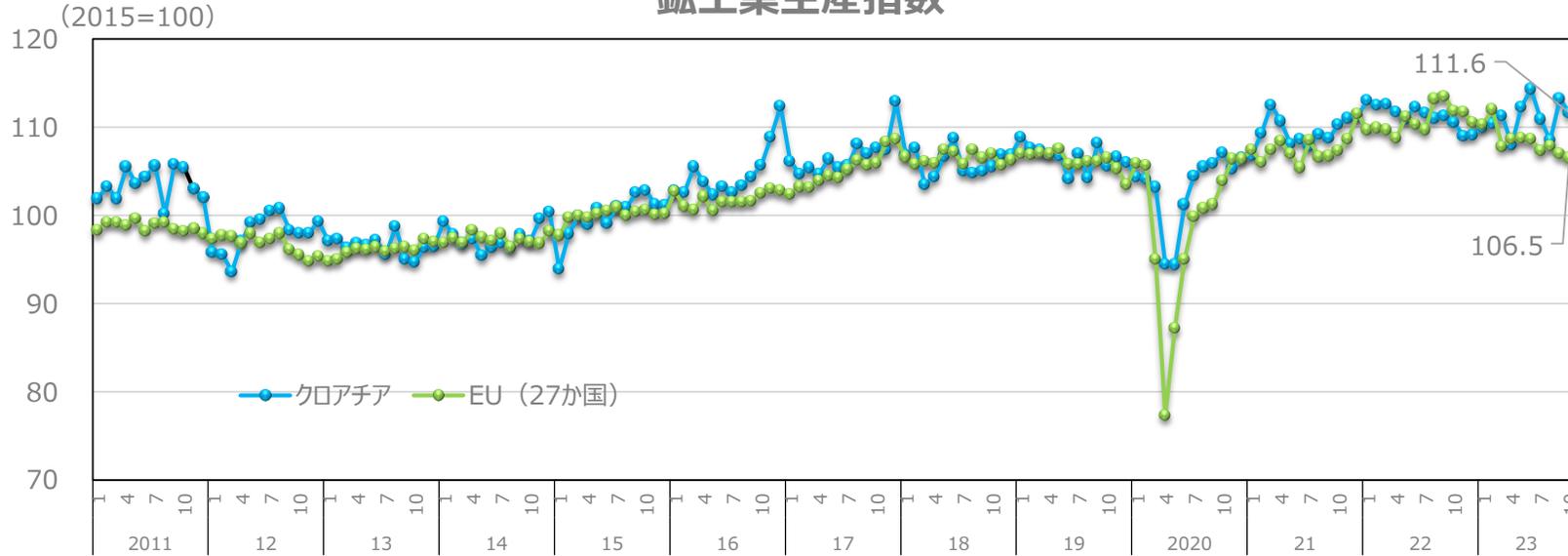
(前年比：%)

## 消費者物価 (HICP)



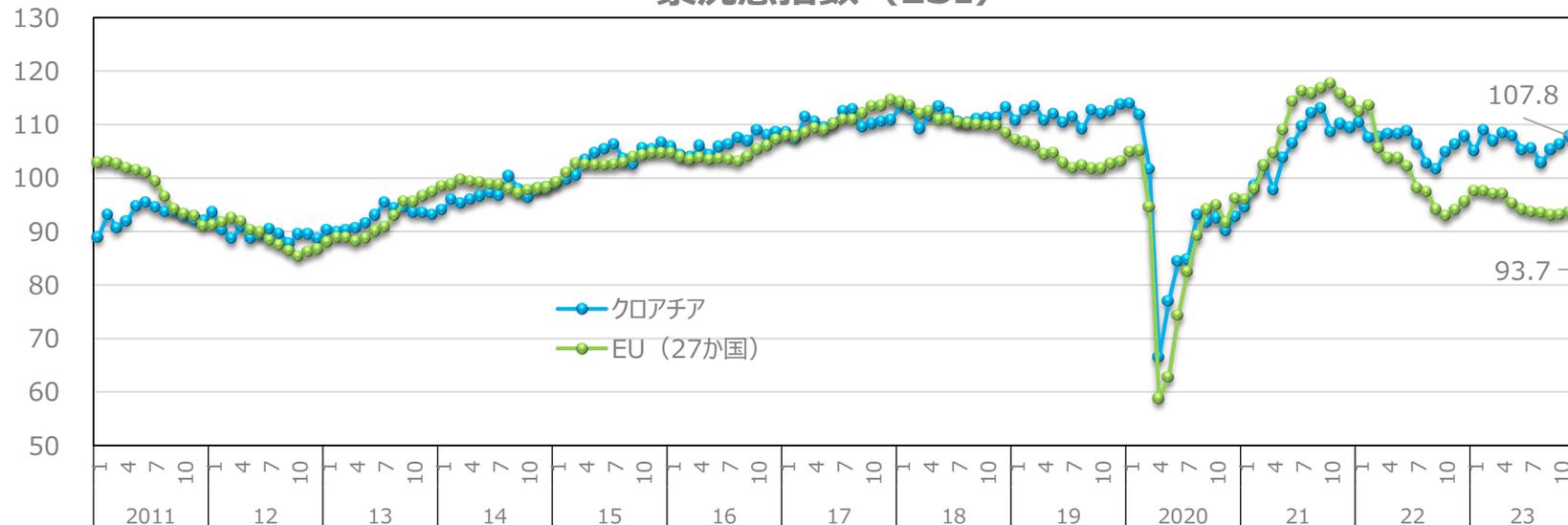
# 3 経済概況 ～ 鋳工業生産、景況感 ～

## 鋳工業生産指数



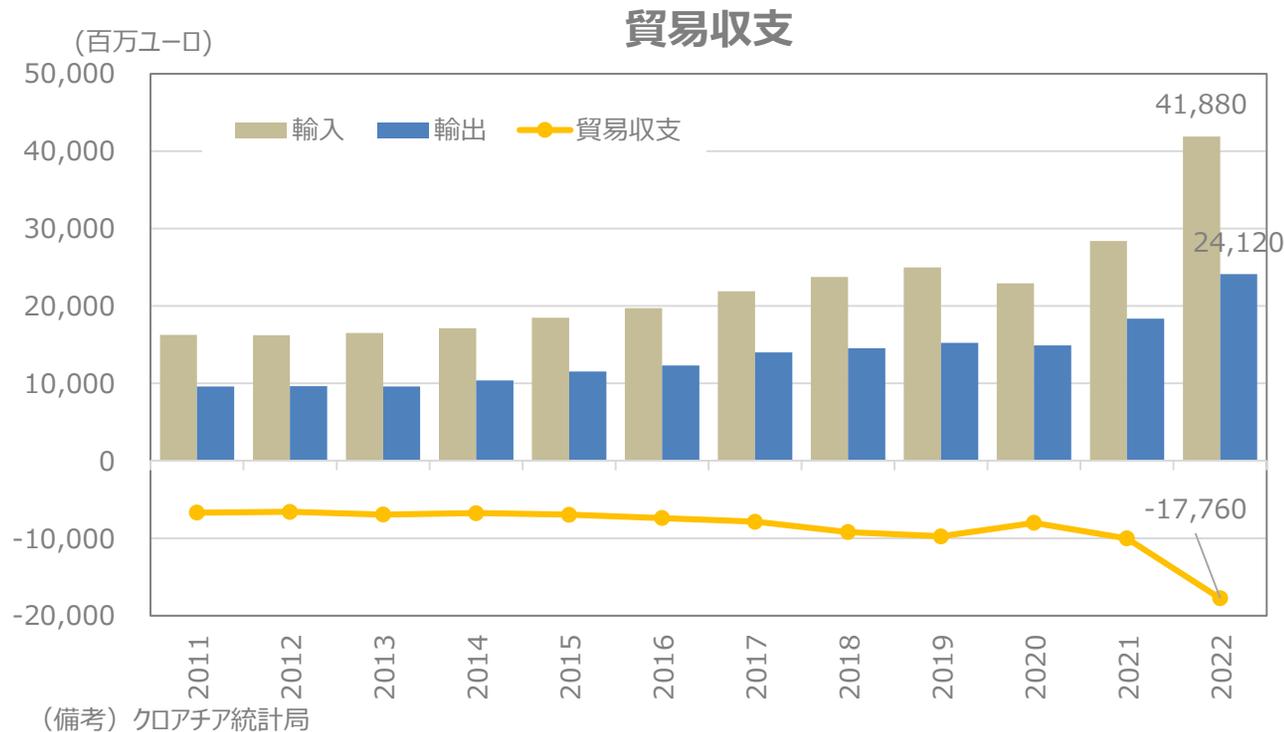
(備考) EUROSTAT。季節調整値。

## 景況感指数 (ESI)



(備考) EUROSTAT。季節調整値。

# 3 経済概況 ～ 貿易収支 ～



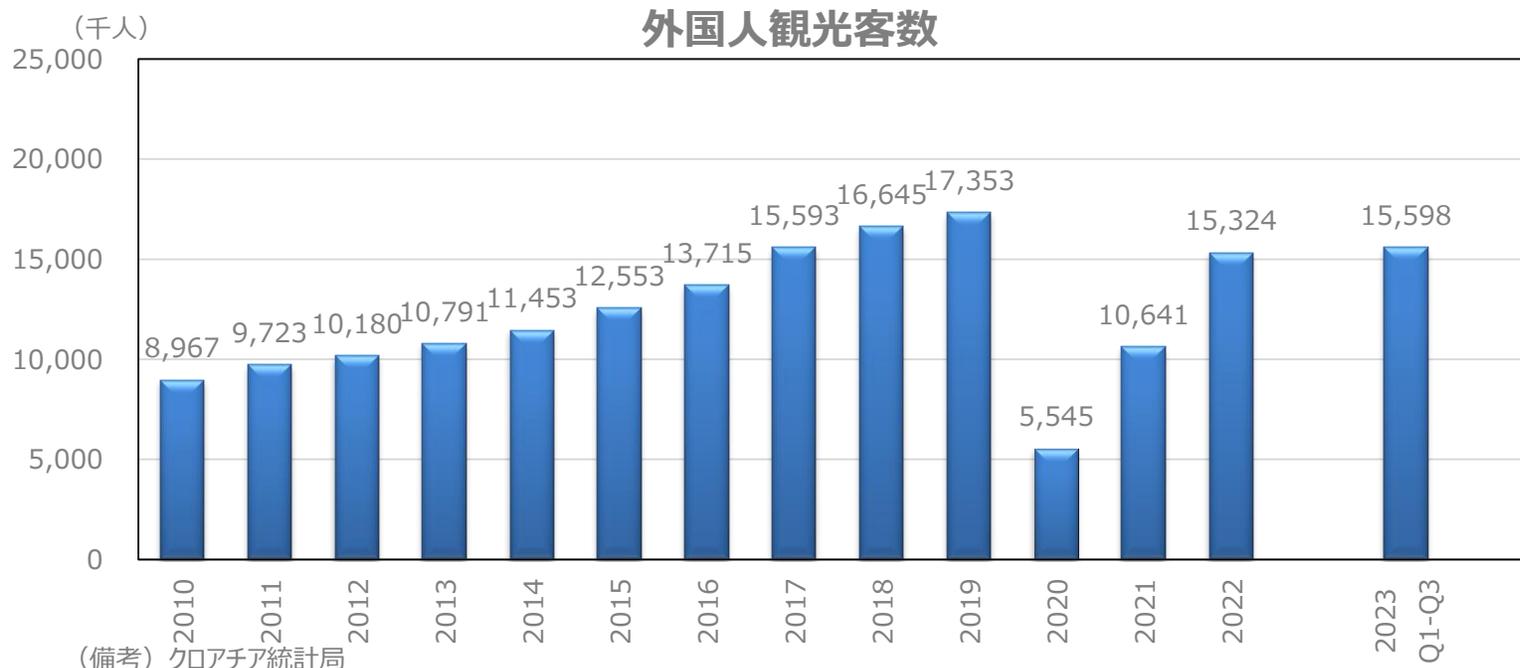
## 主要貿易相手国 (上位10か国、2022年)

(千ユーロ)

順位	相手国	貿易総額 (輸出額+輸入額)	クロアチア全体に占める シェア (%)	輸出額	輸入額	輸出-輸入
1	イタリア	8,639,397	13.2	2,911,524	5,727,872	▲ 2,816,348
2	ドイツ	7,818,243	11.9	2,647,423	5,170,819	▲ 2,523,396
3	スロベニア	7,222,837	11.0	2,758,935	4,463,902	▲ 1,704,968
4	ハンガリー	5,751,886	8.8	2,724,649	3,027,237	▲ 302,588
5	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3,920,658	6.0	2,492,249	1,428,409	1,063,840
6	アメリカ	3,734,771	5.7	555,334	3,179,437	▲ 2,624,103
7	オーストリア	3,430,820	5.2	1,270,911	2,159,910	▲ 888,999
8	セルビア	2,827,757	4.3	1,373,831	1,453,926	▲ 80,094
9	ポーランド	1,938,998	3.0	503,308	1,435,691	▲ 932,383
10	オランダ	1,718,921	2.6	336,416	1,382,505	▲ 1,046,089

(備考) クロアチア統計局

# 3 経済概況 ～ 観光 ～



外国人観光客数と延べ宿泊者数 (上位10か国、2022年)

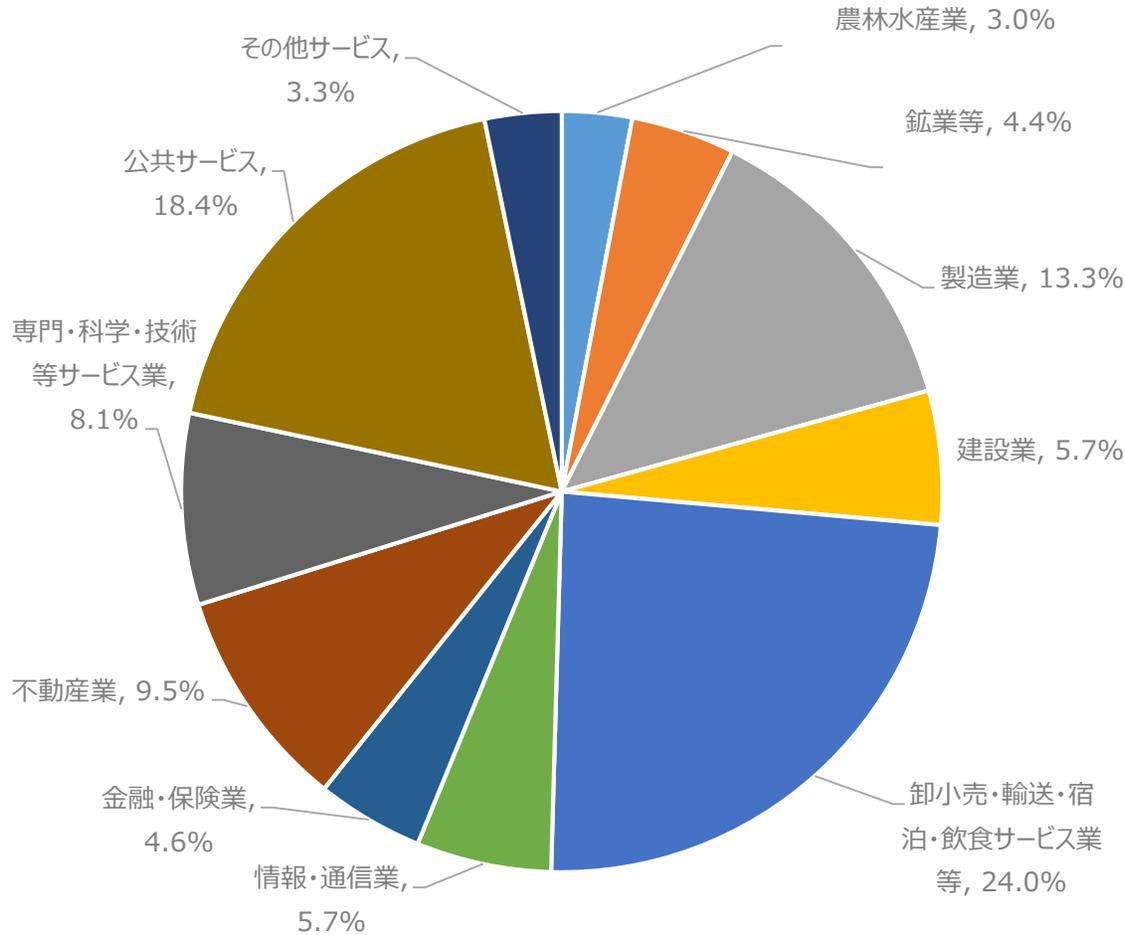
順位	国	外国人観光客数	クロアチア全体に占めるシェア (%)
1	ドイツ	3,281,187	21.4
2	オーストリア	1,453,241	9.5
3	スロベニア	1,418,967	9.3
4	ポーランド	1,005,957	6.6
5	イタリア	908,160	5.9
6	チェコ	835,402	5.5
7	イギリス	695,903	4.5
8	ハンガリー	573,011	3.7
9	オランダ	528,947	3.5
10	フランス	518,193	3.4

順位	国	外国人観光客延べ宿泊者数	クロアチア全体に占めるシェア (%)
1	ドイツ	23,555,423	28.6
2	スロベニア	7,470,057	9.1
3	オーストリア	7,439,907	9.0
4	ポーランド	6,335,512	7.7
5	チェコ	5,508,190	6.7
6	イタリア	3,897,516	4.7
7	イギリス	3,402,723	4.1
8	オランダ	3,139,135	3.8
9	スロバキア	3,071,636	3.7
10	ハンガリー	2,808,907	3.4

(備考) クロアチア統計局。延べ宿泊者数は、各観光客の宿泊日数を合計した値。

# 3 経済概況 ～ 産業別GDP ～

## 産業別GDP（2022年）



(備考) クロアチア統計局。名目値。



Zagreb\_foto\_Romeo\_Ibrišević /Ministarstvo turizma i sporta/  
【クロアチア国立劇場（ザグレブ市）】



Rijeka\_foto\_Nikola Šolić /Ministarstvo turizma i sporta/  
【トルサット要塞（リエカ市）】



Sveta Nedelja\_foto\_Romeo\_Ibrišević /Ministarstvo turizma i sporta/  
【スヴェタネデリヤ市の風景】

# 3 経済概況 ～ 対内直接投資 ～



(備考) クロアチア国立銀行。速報値。

対内直接投資フロー (1993年～2022年の累計。国別上位10カ国。)

対内直接投資フロー (1993年～2022年の累計。産業別上位10業種)

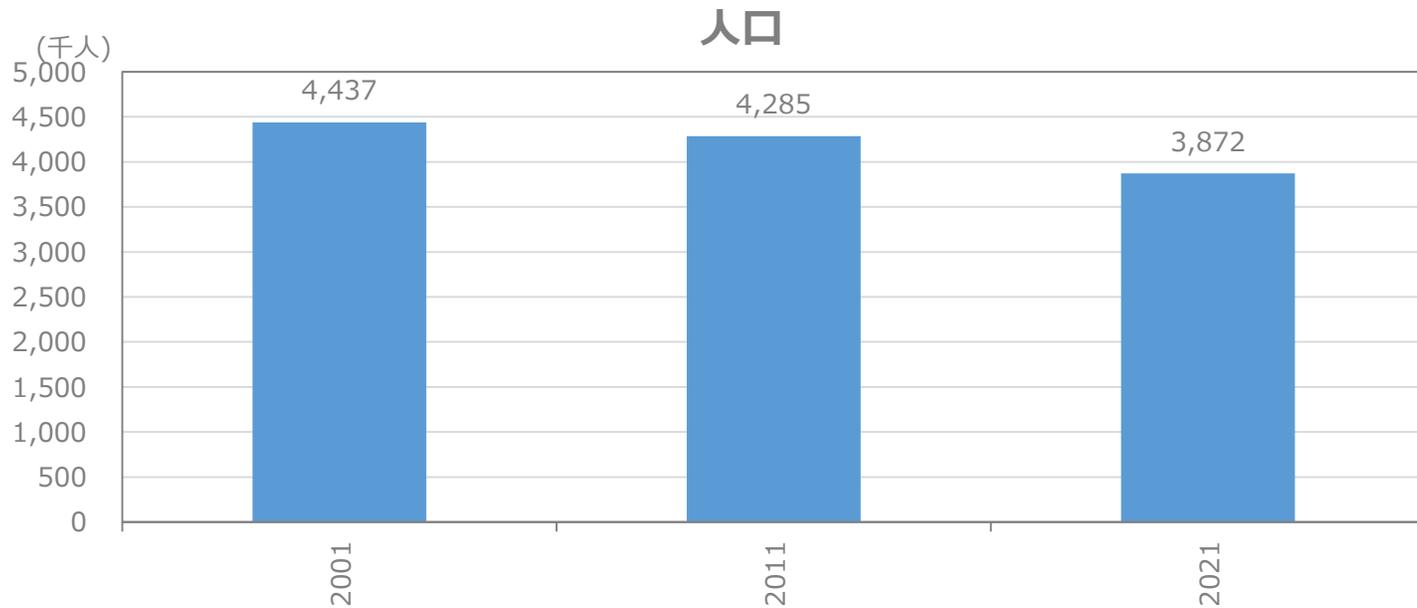
順位	国	投資額 (百万ユーロ)	クロアチア全体に 占めるシェア(%)
1	オランダ	6,511	14.9
2	オーストリア	6,066	13.9
3	ドイツ	4,709	10.8
4	ルクセンブルク	4,445	10.2
5	イタリア	4,054	9.3
6	ハンガリー	3,156	7.2
7	スロベニア	2,256	5.2
8	イギリス	1,450	3.3
9	マルタ	1,243	2.8
10	フランス	1,013	2.3

(備考) クロアチア国立銀行。速報値。

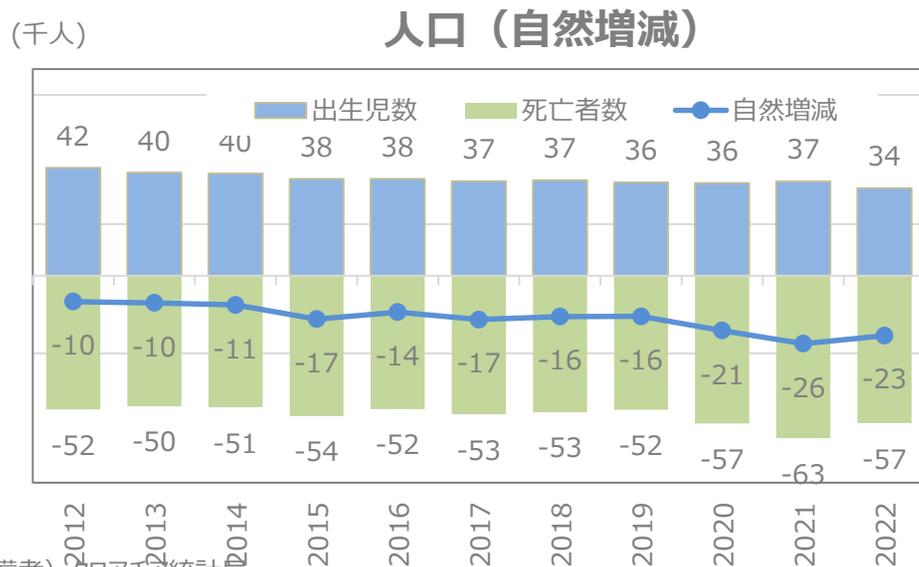
順位	業種	投資額 (百万ユーロ)	クロアチア全体に占める シェア(%)
1	金融サービス業 (保険業等を除く)	9,973	23.5
2	不動産業 (不動産投資含む)	6,852	16.1
3	卸売業 (自動車等を除く)	2,892	6.8
4	小売業 (自動車等を除く)	2,910	6.8
5	通信業	1,928	4.5
6	宿泊業	1,869	4.4
7	コークス及び精製石油製品製造業	1,405	3.3
8	基礎医薬品及び医薬調合品製造業	1,142	2.7
9	建築工事業	997	2.3
10	その他の非金属鉱物製品製造業	991	2.3

(備考) クロアチア国立銀行。

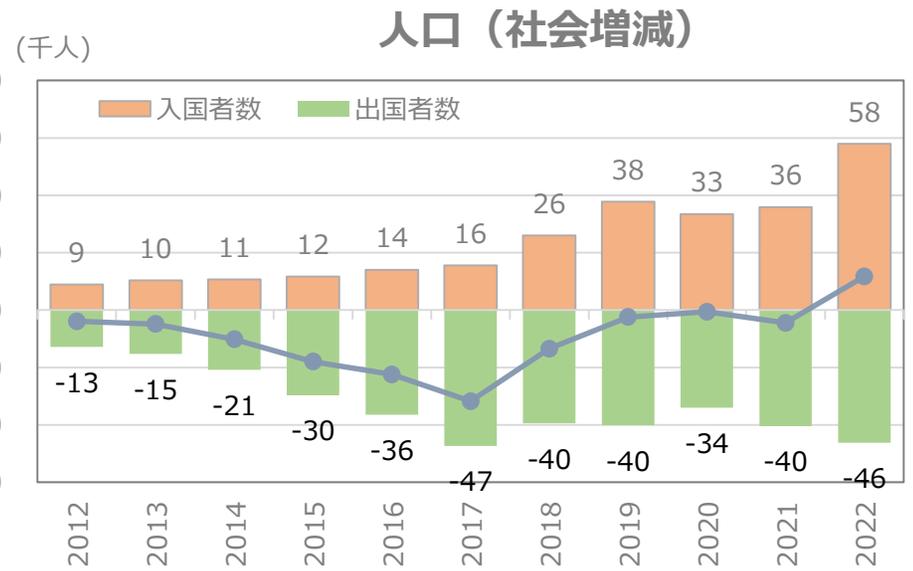
# 3 経済概況 ～ 人口① ～



(備考) クロアチア統計局。2001年国勢調査、2011年国勢調査、2021年国勢調査の数値。



(備考) クロアチア統計局

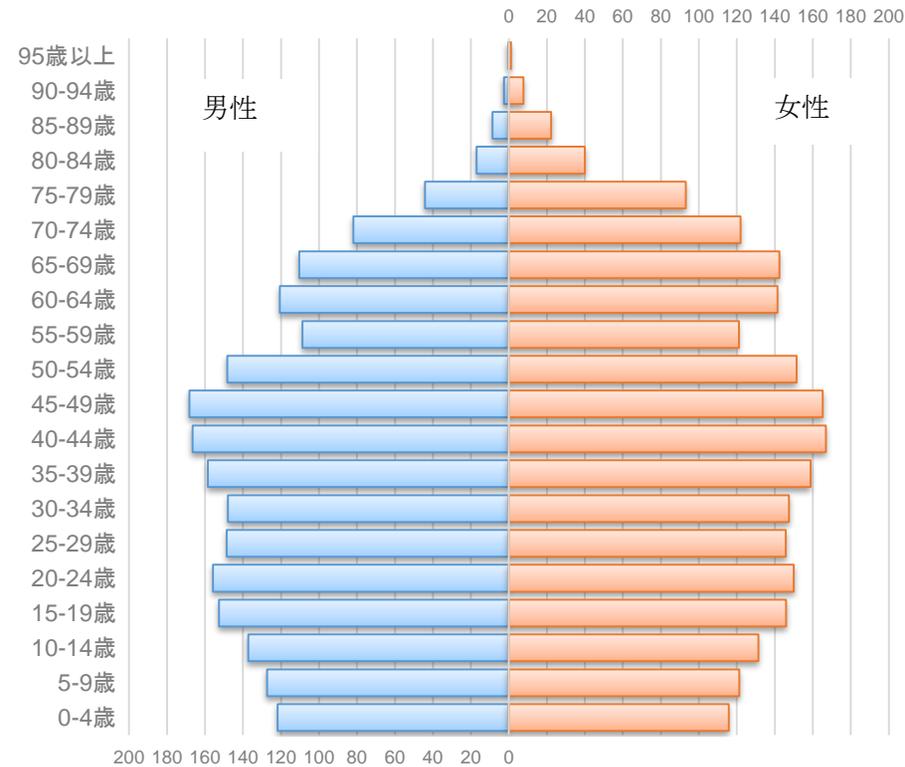


(備考) クロアチア統計局

# 3 経済概況 ～ 人口② ～

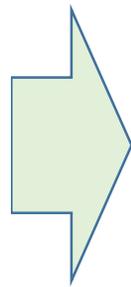
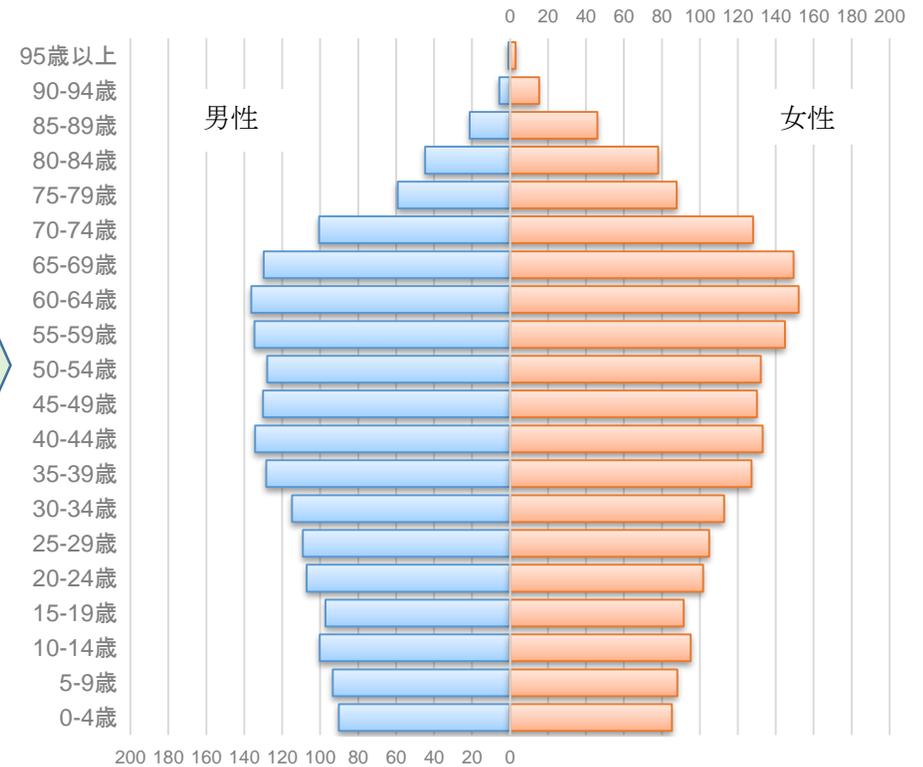
人口ピラミッド (2001年)

(単位:千人)



人口ピラミッド (2021年)

(単位:千人)



(備考)クロアチア統計局. 国勢調査

(備考)クロアチア統計局. 国勢調査

65歳以上人口の割合は、16% (2001年) から22% (2020年) に増加。

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
合計特殊出生率	1.48	1.51	1.46	1.46	1.40	1.42	1.42	1.47	1.47	1.48	1.58

(備考)EUROSTAT

### 3 経済概況 ～ 人口③ ～

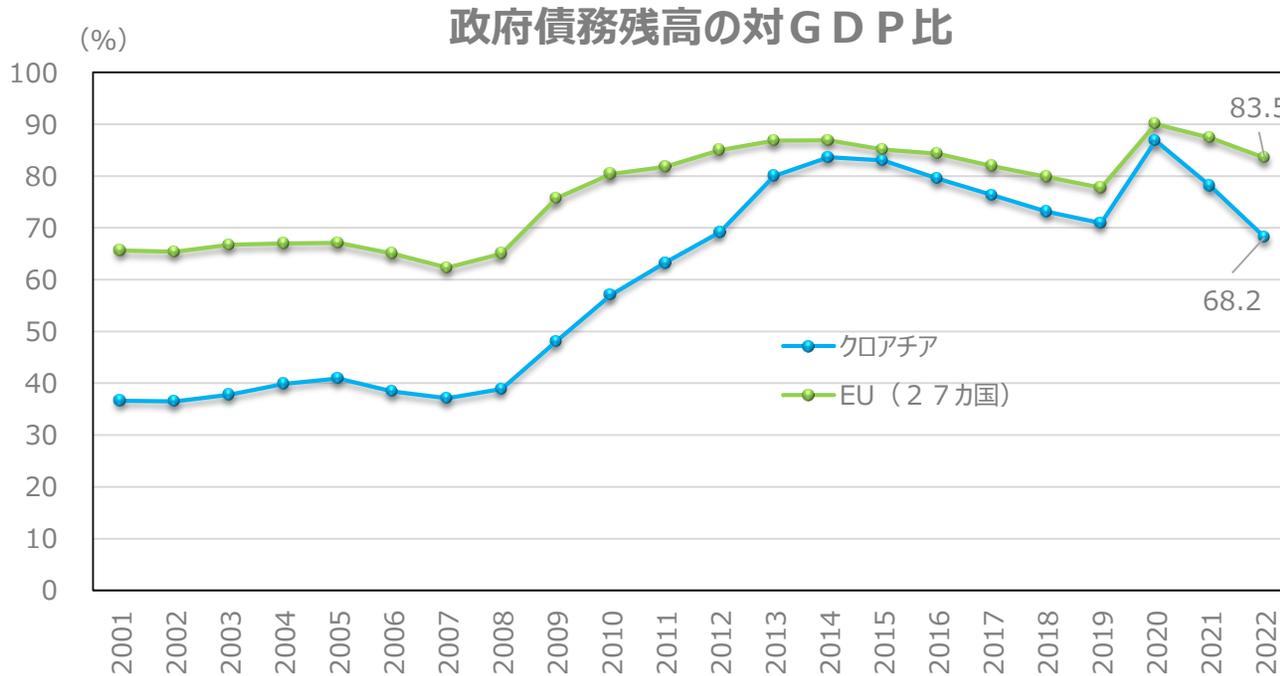
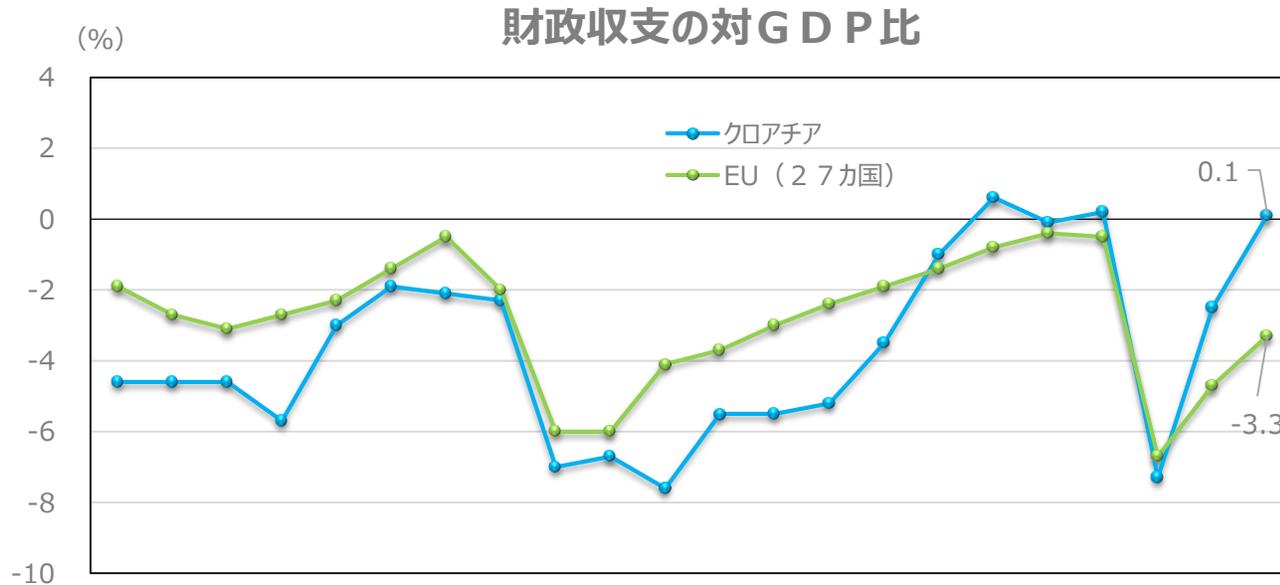
#### クロアチア入国・出国者数（出国元／入国先別。2022年）

（単位：人）

主な出国元／入国先の 国・地域名	クロアチアへの入国者数			クロアチアからの出国者数		
	合計	クロアチア国民	外国人	合計	クロアチア国民	外国人
EU加盟国	10,877	5,933	4,943	25,415	24,441	972
オーストリア	859	531	327	4,933	4,899	34
アイルランド	321	284	37	1,187	1,180	7
イタリア	757	225	532	1,194	1,032	162
ドイツ	5,768	4,334	1,434	14,371	14,184	186
スロベニア	840	124	716	891	634	257
EU加盟国以外の欧州	31,774	2,822	28,952	16,832	6,622	10,210
アルバニア	1,125	1	1,124	788	4	784
ボスニア・ヘルツェゴビナ	8,465	1,625	6,840	6,490	2,321	4,169
コソボ	2,209	26	2,183	1,344	29	1,315
北マケドニア	1,623	34	1,589	651	71	580
セルビア	4,515	510	4,005	3,659	1,382	2,277
スイス	465	340	125	1,753	1,740	13
ウクライナ	11,171	13	11,158	539	4	535
アジア	11,869	107	11,761	2,129	227	1,902
アフリカ	680	32	648	75	21	54
北米・中米	826	513	313	817	687	130
南米	345	63	282	103	27	76
オセアニア	362	293	69	258	241	17
不明	1,239	577	660	658	473	182
合計	57,972	10,340	47,628	46,287	32,739	13,543

（備考）クロアチア統計局。クロアチア市民権保有者（クロアチア国民）かどうか不明の者が、クロアチアへの入国者数合計では4名、クロアチアからの出国者数合計では5名含まれている。

# 3 経済概況 ～ 財政 ～



(備考) EUROSTAT。

## 4 日・クロアチア経済関係の概況 ～ 基本情報 ～

### 主なタイムライン

- 1993年 外交関係開設
- 1998年 在クロアチア日本国大使館開設
- 1999年～2012年 政府開発援助（ODA）対象国
- 2013年 クロアチアのEU加盟
- 2016年 在スプリット名誉総領事の任命
- 2019年 2月 日EU経済連携協定（EPA）の効力発生  
9月 日クロアチア租税協定の効力発生  
12月 日EU戦略的パートナーシップ（SPA）のクロアチア議会承認
- 2023年 外交関係樹立30周年  
7月 日クロアチア航空協定に署名
- 2025年 大阪・関西万博

※通商航海条約、文化協力協定、科学技術協力協定を旧ユーゴスラビアより継承。

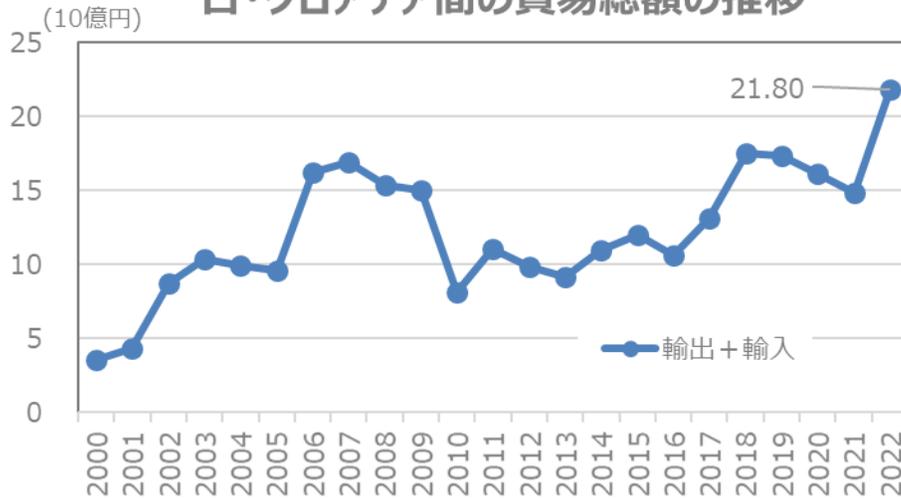
### 人口、GDPの比較

2022年	クロアチア	日本
人口	385.4万人	1億2,512万人
名目GDP	709億 USドル	4兆2311億 USドル
一人あたり名目GDP	18,413 USドル	33,815 USドル

（備考）世界銀行「World Development Indicators」（Last Updated: 10/26/2023）

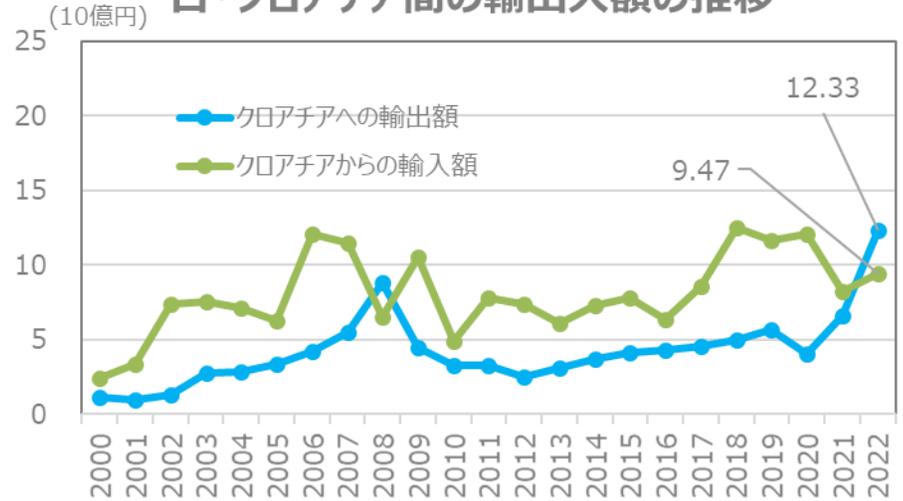
# 4 日・クロアチア経済関係の概況 ～ 貿易① ～

## 日・クロアチア間の貿易総額の推移



(備考) 財務省「貿易統計」

## 日・クロアチア間の輸出入額の推移



(備考) 財務省「貿易統計」

### クロアチアからの主な輸入品 (2022年)

	内容	金額 (千円)	輸入総額に占める割合 (%)
1	まぐろ	5,736,941	60.6
2	有機化合物	1,094,268	11.6
3	一般機械	434,907	4.6
4	衣類及び同附属品	327,172	3.5
5	木材及びコルク	305,964	3.2

(備考) 財務省「貿易統計 国別概況品別表」より作成。

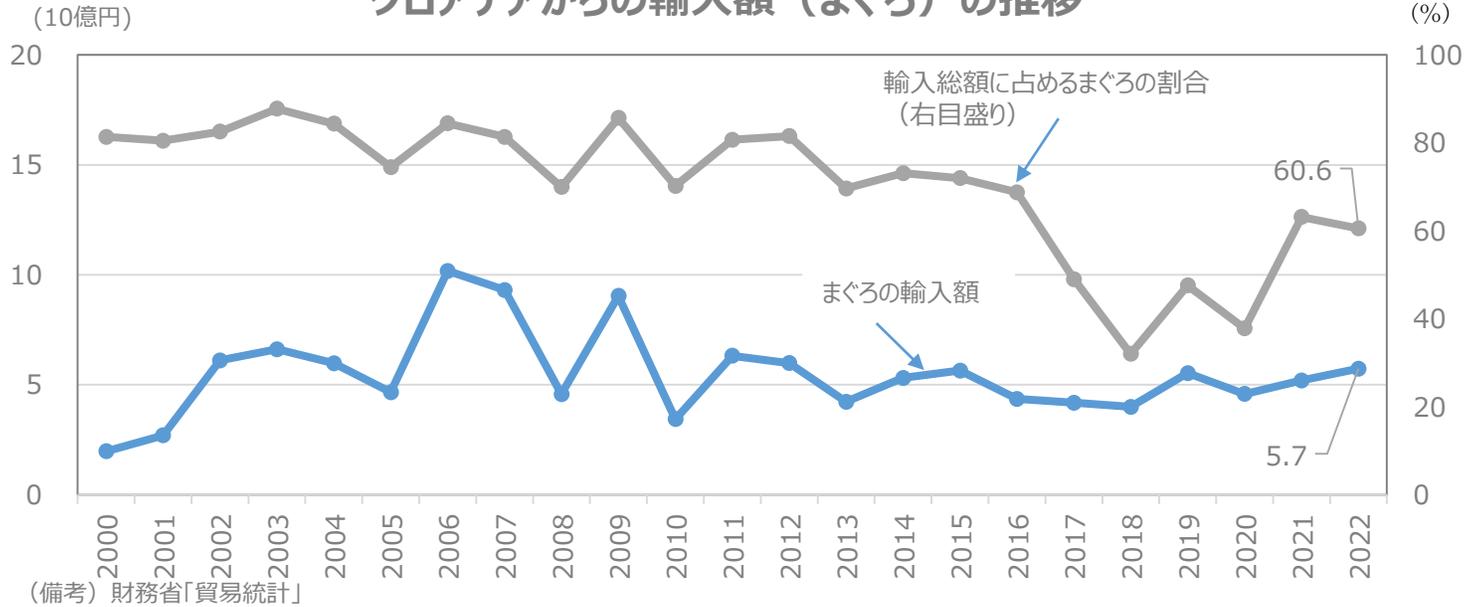
### クロアチアへの主な輸出品 (2022年)

	内容	金額 (千円)	輸出総額に占める割合 (%)
1	輸送用機器	5,833,130	47.3
2	鉄鋼	2,006,208	16.3
3	一般機械	1,905,454	15.5
4	その他の化学製品	1,072,680	8.7
5	有機化合物	329,511	2.7

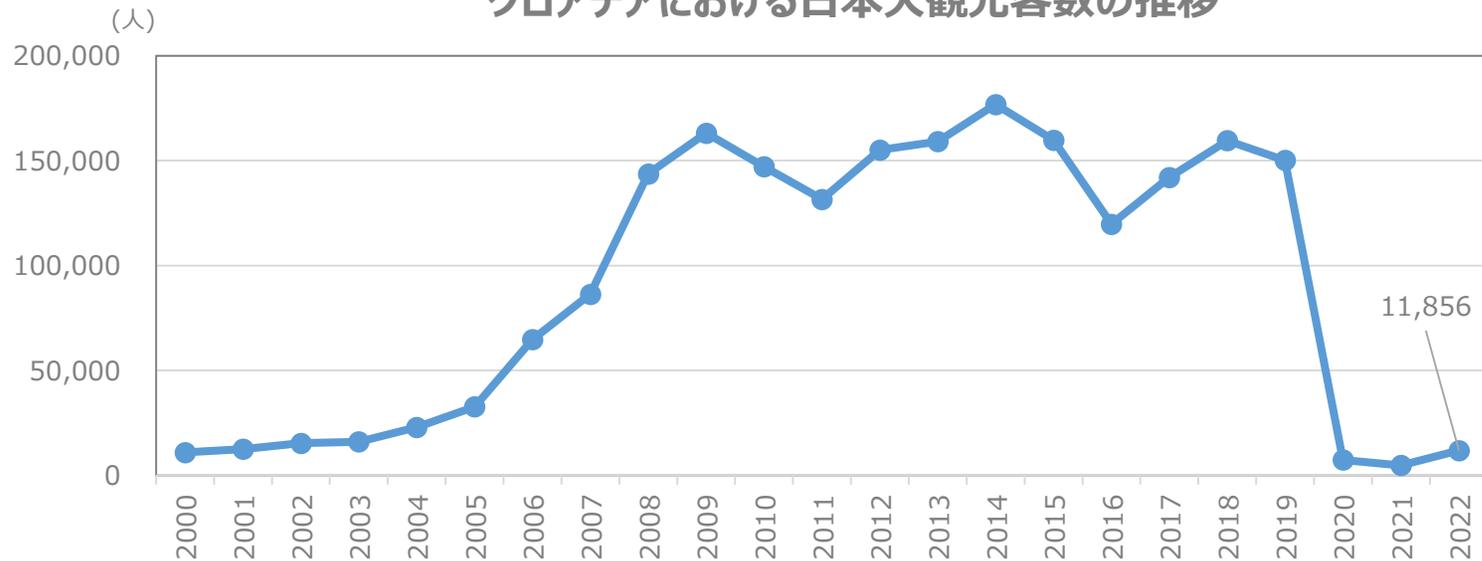
(備考) 財務省「貿易統計 国別概況品別表」より作成。

# 4 日・クロアチア経済関係の概況 ～ 貿易②、観光 ～

## クロアチアからの輸入額（まぐろ）の推移



## クロアチアにおける日本人観光客数の推移



## 5 クロアチアの投資環境 ～ユーロ導入・シェンゲン圏・OECD・EU資金～

2023年1月から通貨ユーロを導入するとともに、シェンゲン協定に加盟している。

クロアチアとシェンゲン協定加盟国間の出入国審査は、陸路・海路については2023年1月1日に廃止され、空路については2023年3月26日に廃止。なおスロベニアとの国境に関しては、2023年10月21日にスロベニアは、一時的規制を導入し、2024年6月22日までの延長を発表している。

### OECD加盟に向けた動き

2017年1月 クロアチアが加盟申請

2022年1月 OECD理事会は、クロアチアのOECD加盟に向けた協議開始を決定

2022年6月 OECD理事会は、クロアチアのOECD加盟に向けたロード・マップを採択

### EU資金の活用

● クロアチアは、EU資金を活用したインフラ・プロジェクト等を実施。2020年の2度の大地震からの震災復興財源としても活用。

● 2020年7月、特別欧州理事会は、コロナ危機からの経済復興のための一時的な緊急復興措置である復興基金（7500億ユーロ）及び時期多年度財政枠組み「MFF」（1兆743億ユーロ）の総額1兆8243億ユーロのEU予算パッケージに合意。

● 復興基金の主要部である「復興・強靱化ファシリティ」に関し、クロアチアは贈与63億ユーロ、融資36億ユーロ（合計約100億ユーロ。クロアチアのGDPの20%。）が利用可能とされている（金額は2018年物価による）。

● 2021年7月、クロアチア政府は、復興・強靱化ファシリティを活用するために事業プロジェクト等をまとめた復興・強靱化計画を作成し、EU理事会の承認を受けた。

（復興・強靱化計画（クロアチア語）：[https://ec.europa.eu/info/files/recovery-and-resilience-plan-croatia\\_en](https://ec.europa.eu/info/files/recovery-and-resilience-plan-croatia_en)）

# 5 クロアチアの投資環境 ～インフラ①～

## 高速道路

○全国的に高速道路網が整備されており、車でザグレブからリャブリャナまでは2時間程度、ブダペスト、ベオグラード、ウィーンまでは4～5時間程度。

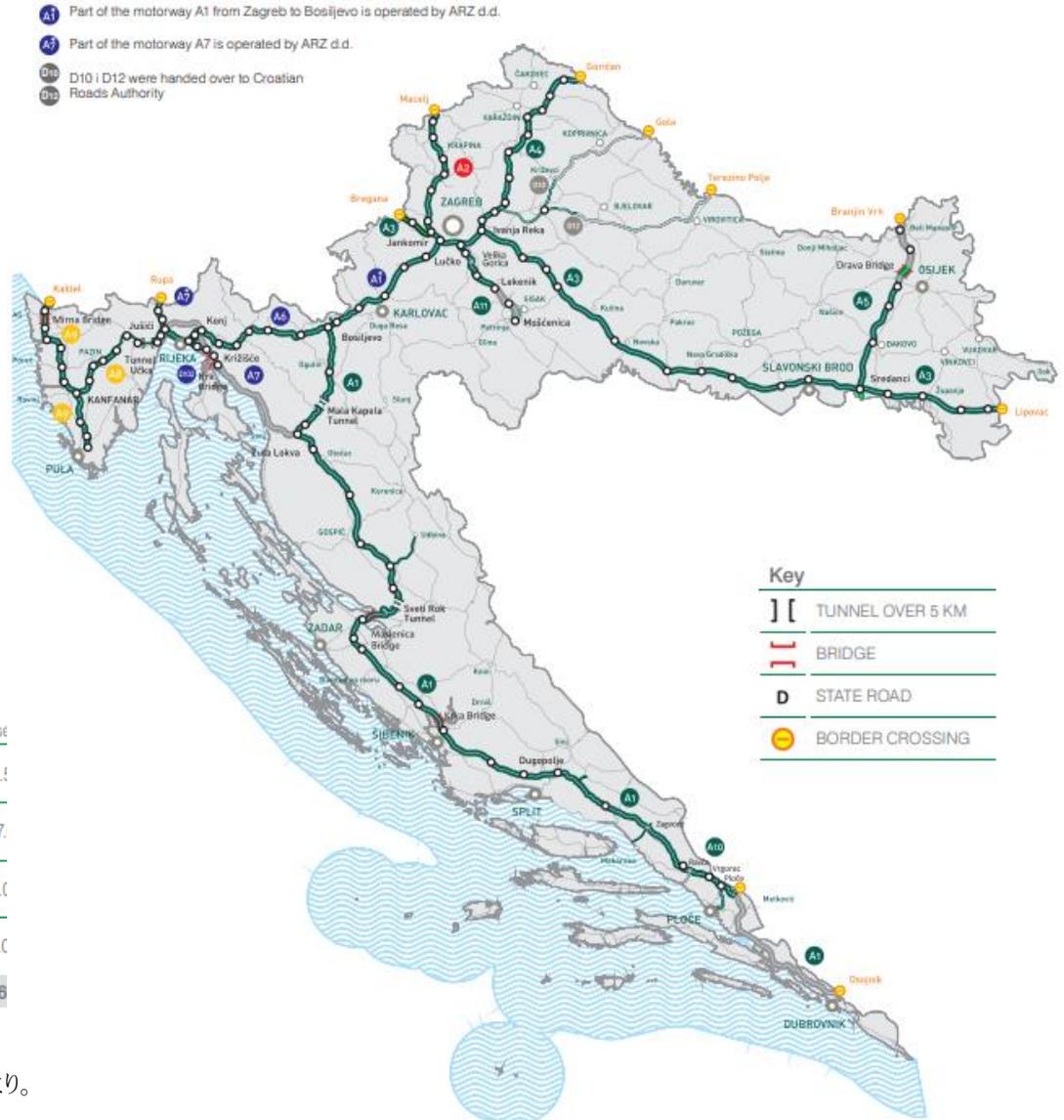
○2022年7月26日、クロアチアの大陸部分とペリエシャツ半島（首都ザグレブから南に約340キロメートルに位置）を結ぶ橋梁「ペリエシャツ橋」の開通式が行われた。接続道路を含む工事費用総額5億2500万ユーロのうち、3億5700万ユーロがEU基金によるもの。橋梁の建設は、中国路橋工程有限責任会社が請け負った。これにより、B H領を通過することなく、クロアチア国土の南端まで陸路で往来できるようになった。

### Motorways in the Republic of Croatia

#### Network and companies

Company	Motorways	Status of construction	Km in se
HRVATSKE AUTOCESTE d.o.o.	A1, A3, A5, A6, A9, A11	IN SERVICE	918.1
AUTOCESTA RIJEKA-ZAGREB d.d.	A1, A6, A7, D10	IN CONSTRUCTION	187.0
BINA-ISTRRA d.d.	A8, A9	IN PROJECT	141.0
AUTOCESTA ZAGREB-MACELJ d.o.o.	A2		60.0
TOTAL in service as per 31/12/2020			1,306

(備考) THE CROATIAN ASSOCIATION OF TOLL MOTORWAYS CONCESSIONAIRES 「NATIONAL REPORT ON MOTORWAYS 2020」より。  
<http://www.huka.hr/en/>



# 5 クロアチアの投資環境 ～インフラ②～

## 鉄道・港湾・空港

### 【鉄道】

○欧州の鉄道貨物回廊ネットワーク (Rail Freight Corridors network) のうち、地中海回廊 (Mediterranean Corridor) 及びアルプス西バルカン回廊 (Alpine - Western Balkan Corridor) がクロアチアを通る。

○全国的に鉄道網が整備されているが、その多くは単線であり老朽化。E U 資金を活用した鉄道システムの近代化、複線化事業を実施中。

### 【港湾】

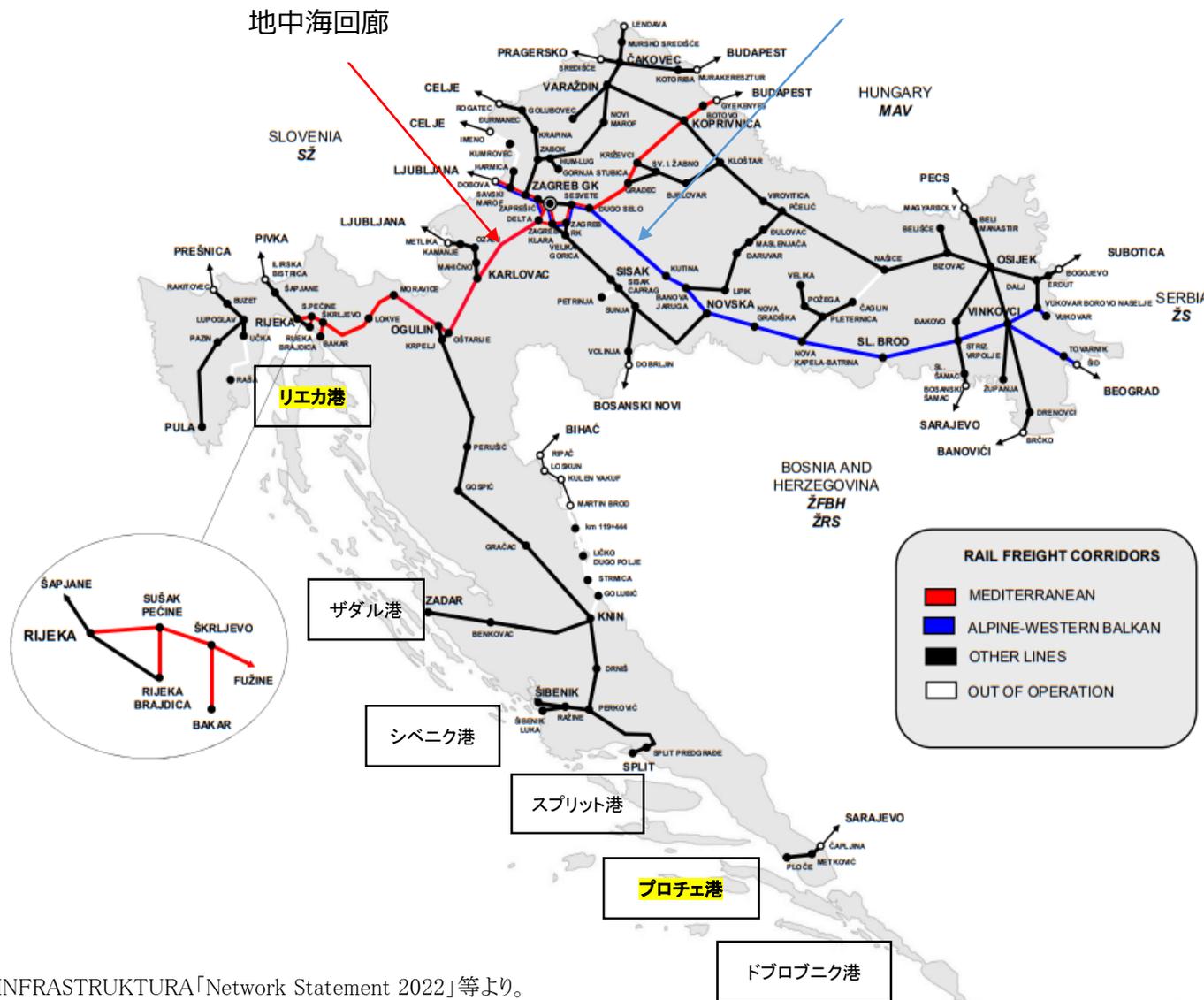
○クロアチアの主要な港は、主に貨物を扱うリエカ港、プロチェ港、シベニク港、主に乗客を扱うザダル港、スプリット港、ドブロブニク港。

○リエカ港は、欧州横断運輸ネットワーク (TEN-T) の地中海回廊に位置づけられており、E U 資金を活用した開発プロジェクトを実施中。

### 【空港】

○ザグレブ空港、プーラ空港、リエカ空港、ザダル空港、スプリット空港、ドブロブニク空港、オシエク空港、ブラチ空港、ロシニ空港

アルプス西バルカン回廊



(備考) HŽ INFRASTRUKTURA「Network Statement 2022」等より。  
[https://eng.hzinfra.hr/wp-content/uploads/2021/09/E2022\\_IL\\_NS.pdf](https://eng.hzinfra.hr/wp-content/uploads/2021/09/E2022_IL_NS.pdf)

# 5 クロアチアの投資環境 ～インフラ③～

## エネルギー

- ・電力の国内生産(2021年)のうち47%が水力、20%が火力(天然ガス)。また、スロベニアにあるクルシュコ原子力発電所(同国と共同運営)の発電量のうち50%相当を同国から輸入している。
- ・クルク島にあるLNGターミナルは、2021年1月に運転開始。本ターミナルは、中・南東欧の天然ガス供給の安全性と多様化にとって重要とされ、国家戦略プロジェクトに位置付けられている。
- ・2022年8月18日、クロアチア政府は、LNGターミナルの再ガス化能力を年間29億立法メートルから61億立法メートルに拡張するとともに、ガスパイプライン(Zlobin地区~Bosiljevo地区)の増設を決定。プロジェクト総額は、1億8000万ユーロ(うち2500万ユーロがLNGターミナルの拡張に、1億5500ユーロがガスパイプライン増設に充てられる予定)。

エネルギー・バランス(電力)	単位: GWh	(参考) 国内生産に占める割合 (%)
国内生産	15210.4	100.0
水力発電	7228.7	47.5
風力発電	2061.8	13.6
太陽光発電	148.9	1.0
地熱発電	89.7	0.6
バイオマス発電	659.6	4.3
バイオガス発電	440.2	2.9
火力発電(石炭)	1456.9	9.6
火力発電(天然ガス)	3089.7	20.3
火力発電(石油)	34.9	
輸入	6700.0	
輸出	2739.0	
総供給量	19171.4	
送配損失等	2684.9	
最終消費量	16486.5	

(備考) 経済・持続可能な開発省「ENERGY IN CROATIA 2021」より作成。

[https://eihp.hr/wp-](https://eihp.hr/wp-content/uploads/2023/01/Energija%20u%20HR%202021_WEB_LR.pdf)

[content/uploads/2023/01/Energija%20u%20HR%202021\\_WEB\\_LR.pdf](https://eihp.hr/wp-content/uploads/2023/01/Energija%20u%20HR%202021_WEB_LR.pdf)

なお、輸入には、スロベニアにあるクルシュコ原子力発電所(同国と共同運営)の発電量のうち50%相当の2709.3GWhが含まれる。



4-24. Future development of the transmission system and projects in the function of diversification of supply and increase of efficiency of the transmission system

(備考) 経済・持続可能な開発省「Integrated National Energy and Climate Plan for the Republic of Croatia for the period 2021-2030」より。

## 5 クロアチアの投資環境 ～税率、人件費～

### 税率

- 法人税率 : 10%又は18%  
所得税率 : 年収50400ユーロ以下は15% ~ 23.6%、年収50400ユーロ以上は25%~35.4%  
付加価値税 : 25% (宿泊サービスや子供関連用品等の一部は13%、食料品等の一部は5%)  
社会保障費 : 36.5% (雇用者負担16.5%、被用者負担20%)

(参考) 日クロアチア租税協定 (2019年9月効力発生)

投資所得 (配当、利子及び使用料) については、源泉地国 (所得が生ずる国) における課税の上限 (限度税率) が設けられ又は課税が免除される。

- 配当 : 免税 (議決権保有割合25%以上・保有期間365日以上)  
5% (その他)  
利子 : 免税 (政府受取等)  
5% (その他)  
使用料 : 5%

(参考) 経済・持続可能な開発省ウェブサイトTax system

<https://investcroatia.gov.hr/en/tax-system/>

クロアチア財務省租税局ウェブサイト<https://www.porezna-uprava.hr/en/Pages/default.aspx>

外務省ウェブサイト[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4\\_006594.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_006594.html)

### 人件費

2022年 平均給与 (月額)	クロアチア全体	ザグレブ市
グロス	1380ユーロ	1710ユーロ
ネット	1016ユーロ	1205ユーロ

(備考) 経済・持続可能な開発省「Investment Guide」(2023年4月)

<https://vlada.gov.hr/UserDocsImages/ZPPI/Invest%20in%20Croatia/Investment-Guide-2023.pdf>

### その他

クロアチア経済会議所 (<https://investincroatia.hr/>) や経済・持続可能な開発省 (<https://investcroatia.gov.hr/en/>) のウェブサイトには、法人設立方法や投資案件など様々な情報が掲載されている。

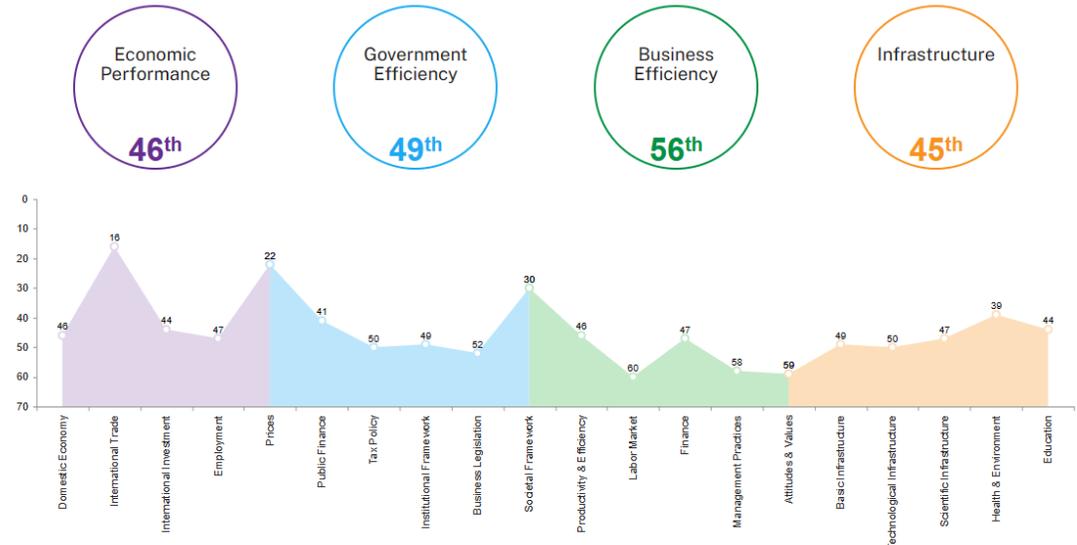
# 5 クロアチアの投資環境 ～ 競争力ランキング ～

## COMPETITIVENESS LANDSCAPE for 2023

Country profile comparison

① 2023年IMD国際競争力ランキングにおいて、クロアチアは64か国中50位（2022年は63か国中46位）。

② 4つの大項目別にみると、経済状況が46位、政府の効率性が49位、ビジネスの効率性が56位、インフラが45位となっている。



## KEY ATTRACTIVENESS INDICATORS

From a list of 15 indicators, respondents of the Executive Opinion Survey were asked to select 5 that they perceived as the key attractiveness factors of their economy. The bars in the chart show the percentage of responses per indicator from the highest number of responses to the lowest.

### 15 indicators

Indicator	Percentage (%)
1. Skilled workforce	79.1
2. High educational level	59.7
3. Reliable infrastructure	52.24
4. Dynamism of the economy	46.27
5. Cost competitiveness	44.78
6. Access to financing	38.81
7. Open and positive attitudes	37.31
8. Quality of corporate governance	23.88
9. Policy stability & predictability	22.39
10. Strong R&D culture	14.93
11. Effective labor relations	14.93
12. Business-friendly environment	13.43
13. Competitive tax regime	5.97
14. Effective legal environment	4.48
15. Competency of government	1.49

Country profile comparison

③ 経営者層へのアンケート調査では、クロアチアの魅力的な要素として、「Skilled workforce」（79.1%）、「High educational level」（59.7%）を選択する者が多いが、「Effective legal environment」（4.48%）、「Competency of government」（1.49%）

を選択する者は少ない。  
（備考）「IMD世界競争力ランキング」ウェブサイトより。

<https://worldcompetitiveness.imd.org/countryprofile/HR/wcy>

## 5 クロアチアの投資環境 ～ 政府の信用格付け ～

2022年7月、EU経済財政閣僚理事会は、2023年1月からのクロアチアのユーロ導入を決定。これを受け、クロアチア政府の信用格付けは、3つの国際的な格付け機関より引き上げられ、3機関全てから投資適格に位置付けられた。2023年は3機関全てが見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げた。

クロアチア政府の信用格付け (Credit rating of the Republic of Croatia)

Fitch Ratings			Moody's			Standard & Poor's		
Date	Rating	Outlook	Date	Rating	Outlook	Date	Rating	Outlook
2023.10.9	BBB+	Positive	2023.11.13	Baa2	Positive	2023.9.18	BBB+	Positive
2022.7.14	BBB+	Stable	2022.7.13	Baa2	Stable	2022.7.15	BBB+	Stable
2021.11.15	BBB	positive	2020.11.13	Ba1	Stable	2019.3.25	BBB-	Stable
2019.4.2	BBB-	Stable	2019.4.29	Ba2	Positive	2018.9.24	BB+	Positive
2019.6.10	BBB-	Positive	2017.3.13	Ba2	Stable	2018.3.26	BB+	Stable
2018.7.9	BB+	Positive	2016.3.14	Ba2	Negative	2017.9.25	BB	Positive
2018.1.15	BB+	Stable	2014.3.24	Ba1	Negative	2016.12.19	BB	Stable
2017.1.30	BB	Stable	2013.2.1	Ba1	Stable	2015.7.20	BB	Negative
2015.8.3	BB	Negative	2012.5.31	Baa3	Negative	2014.1.24	BB	Stable
2014.8.11	BB	Stable	2008.11.19	Baa3	Stable	2013.8.2	BB+	Negative
2014.2.14	BB+	Negative	2007.7.18	Baa3	Positive	2012.12.14	BB+	Stable
2013.9.20	BB+	Stable	2002.1.14	Baa3	Stable	2010.12.21	BBB-	Negative

(備考) クロアチア国立銀行。Long Term Issuer Rating for Foreign Currency。

<https://www.hnb.hr/en/-/credit-rating-of-the-republic-of-croatia>

# 5 クロアチアの投資環境 ～主な日系企業～

- ・自動車部品開発、医療用ガラス容器製造や、船員配乗を行う企業等が活動。
- ・日系企業の多くは自動車・電機製品・医薬品等の販売店、旅行代理店、飲食店等。

**矢崎ヨーロッパ・ザグレブ** (自動車部品、ザグレブ)

自動車部品(配電システム用部品)の設計・開発センターとして、1999年にザグレブに進出。クロアチアの大学出身の優秀なエンジニアを採用。

**ニプロ・ファーマパッケージング・クロアチア**  
(製造、ザグレブ)

医療用ガラス容器の製造・販売を行う。2021年にニプロ社が前身のPiramida社(1950年創業)を子会社化。

**アステラス製薬** (販売 ザグレブ)

**EXITUS** (コンサル・通訳 ザグレブ)

**オリンパス** (販売 ザグレブ)

**キャノン** (販売 ザグレブ)

**コニカ・ミノルタ** (販売 ザグレブ)

**J T インターナショナル** (販売 ザグレブ)

**島津製作所** (販売 ザグレブ)

**Sulimanovic** (翻訳・通訳・IT、ザブレシチ)

**ダイキン** (販売 ザグレブ)

**武田薬品工業** (販売 ザグレブ)

**Tumlare Corporation** (旅行 ザグレブ)

**トヨタ** (販売 ザグレブ)

**Nordic Seafood SEE** (販売 リエカ)

**日立エナジー** (エネルギー、ザグレブ)

**Pink Pig Fast Food** (飲食 ザグレブ)

**Vemi Connect** (旅行 ザグレブ)

**マキタ** (販売 ザグレブ)

**マジヤール・スズキ** (販売 ザグレブ)

**マツダモーター** (販売 ザグレブ)

**ヤマグチ** (飲食、ドブロブニク)



**豊田通商リーシング・クロアチア** (リース、ザグレブ)  
日本企業として初めてクロアチアでの自動車販売金融事業に参入。

**商船三井 (アドリア)** (船員配乗、ドブロブニク)  
欧州人船員配乗会社であるMOL Maritime (Europe) B.V. (オランダ) が全額出資して設立。

**Nordica Seafood SEE**

(水産商事事業、リエカ)

Nordica Seafood A/Sの当地オフィス。(本社はデンマーク) 株式会社ニスイの100%子会社。

**イバ・ SHIPPING** (船員配乗、スプリット)

NYK(日本郵船)シップマネジメント社の当地代理店。社長はスプリット日本国名誉総領事。

※上記以外にも日本企業の代理店等が活動している。なお、本資料は、掲載された企業との取引等の推奨等を目的としたものではありませんので、本資料を利用して被ったいかなる損害についても当館は何ら責任を負うものではありません。

# 5 クロアチアの投資環境 ～関係機関連絡先～

クロアチア経済会議所 (Croatian Chamber of Economy)

U R L : <https://investincroatia.hr/>

電話 : +385-1-4828-382

メール : [eoi@hgk.hr](mailto:eoi@hgk.hr)

住所 : Rooseveltov trg 2, 10000 Zagreb, Croatia



Zagreb\_foto\_Romeo\_Ibrišević /Ministarstvo turizma i sporta/  
【ザグレブ市内】

経済・持続可能な開発省 (Ministry of Economy and Sustainable Development)

U R L : <https://investcroatia.gov.hr/en/>

電話 : +385-1-6106-444

メール : [invest@mingor.hr](mailto:invest@mingor.hr)

住所 : Ulica grada Vukovara 78, 10000 Zagreb, Croatia



Rijeka\_foto\_Nikola Šolić /Ministarstvo turizma i sporta/  
【リエカ港】

駐日クロアチア共和国大使館 (Embassy of the Republic of Croatia in Japan)

U R L : <http://jp.mvep.hr/en/>

電話 : 03-5469-3014

メール : [tokyo@mvep.hr](mailto:tokyo@mvep.hr)

住所 : 150-0012 東京都渋谷区広尾3-3-10

ジエトロ・ウィーン事務所

U R L : <https://www.jetro.go.jp/austria.html>

電話 : +43-1-587-56-28

メール : [wien\\_info@jetro.go.jp](mailto:wien_info@jetro.go.jp)

住所 : Parkring 12A/8/1, A-1010 Wien, Austria



Zagreb\_foto\_Romeo\_Ibrišević /Ministarstvo turizma i sporta/  
【アートパビリオン (ザグレブ市)】

在クロアチア日本国大使館

U R L : [https://www.hr.emb-japan.go.jp/itprtop\\_ja/index.html](https://www.hr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

電話 : +385-1-4870-650

メール : [economy@zr.mofa.go.jp](mailto:economy@zr.mofa.go.jp)

住所 : Boškovićeva 2, 10000 Zagreb, Croatia

※本資料は、2023年1月以前の各種機関の資料や報道等により当館が作成したものです。必ずしも情報について正確性を保証するものではありません。利用者が本資料を用いて行う一切の行為について、当館は何らの責任を負うものではありません。